

「精神障害者が、支援サービスを必要とした時に最初に読むナビゲート本」作成プロジェクト

原見 美帆 ●一般社団法人メンタルウェルビーイングパートナーズ 理事長



ナビゲート本の表紙

要旨

和歌山県内の精神障害者の方々が、支援サービスを必要とした時に、速やかに利用相談に繋がるよう、どのような支援サービスがあり、利用相談はどこにすればよいのか等を掲載した標題のナビゲート本を作成した。

作成にあたり、県内で活動されているピアサポーター(自身も精神障害を抱えながら仲間の回復をサポートする人)やピアコーディネーター(ピアサポーターの活動を支援する人)の方々にも企画段階から協働していただき、サービスユーザーの視点を大事にした構成になるよう検討を重ねた。ナビゲート本には、ピアサポーターのユーザーとしての声や読者へのメッセージも掲載しており、読者のエンパワメント(互いの力を引き出すこと)に繋がることが期待される。

本は1万部発行し、県内精神医療保健福祉機関を通じて、当事者の方々に配布していただいているが、今後も改訂しながら、発行を継続してほしいというお声も既にお聞かせいただいている。読者の感想フォームに寄せられるご意見も参考にしながら、事業の継続を目指していきたい。

1. 背景と目的

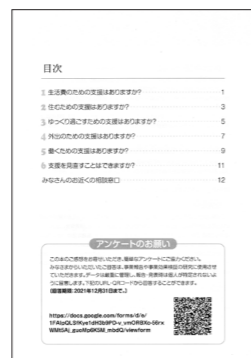
近年、精神障害者が利用対象となる支援サービスは増えつつあるが、どのようなサービスがあり、各サービスはそれぞれどこに誰に利用相談をすればよいのかを、俯瞰的に把握することが困難な状況であった。また、各サービスの詳しいパンフレットは存在するものの、実際に利用してみようかというユーザーの声が掲載されているものはなかなか見受けられず、ユーザーの立場に立った視点で支援サービスを紹介するナビゲート本の作成が求められた。

本プロジェクトは、代表的な支援サービスを網羅的に、わかりやすく紹介することで、精神障害者が情報取得を行う際の合理的配慮を目的としたものである。

2. 活動の方法

1) プロジェクトメンバー

ユーザーの視点を大事にしたナビゲート本を作成するために、本法人メンバーに加え、和歌山県内の3つの法人に所属しているピアサポーター6名と、ピアコーディネーター3名に企画段階から協働していただいた。



ナビゲート本の目次



ナビゲート本の記事

2) プロジェクト会議

コロナ禍のため、当初予定していた集合形式のプロジェクト会議は断念し、オンライン会議を3回(2020年8月29日、2020年9月21日、2021年1月23日)開催した。オンライン会議は初めてのピアサポーターもいたが、日頃から支援されているピアコーディネーターと一緒に参加したことで、緊張も緩和され、積極的な意見交換の場となった。

3) 検討内容

ナビゲート本の目次項目は「生活費のための支援はありますか?」「外出のための支援はありますか?」等、悩み別に設定し、当事者の方々のアドボケートのために「支援を見直すことはできますか?」という目次項目も設定することとした。また、読者のエンパワメント(お互いの力を引き出すこと)にも繋がるよう、ナビゲート本の冒頭にはピアサポーターから当事者の方々へのメッセージを掲載することとした。

役割分担については、各サービスのわかりやすい説明と、どこに誰に相談をすればよいのかを、本法人スタッフやピアコーディネーター等、支援者が執筆した。また、各サービスを実際利用してみようかというユーザーの声と、同じ精神障害を抱えている読者へのメッセージをピアサポーターが執筆した。イラストや似顔絵も当事者の方々に描いていただいた。

3. 現状の成果・考察

ナビゲート本は1万部発行し、2021年3月末に和歌山県内の全精神科医療機関、精神保健福祉センター、全保健所、全市町村障害福祉サービス窓口、全基幹相談支援事業所等、123か所に配布した。日頃の支援現場で、必要とされる当事者の方々にお渡しいただいているところである。

読者からは、「こんな本があればよいのに



オンライン会議の様子

……と思っていた本ができた。(支援者)」「とても参考になりました。必ず(病気は)よくなる。乗り越えていく。(当事者)」といった感想をいただいているところである。

また、このプロジェクトに取り組んだピアサポーターからは、「何より当事者が参加できて同じ立ち位置で意見も言えたのがよかった。」「他のピアサポーターの方とも一体感みたいなものを感じることができた」等の感想をいただき、支援者からは、「実際の生活で何が必要で、どんな支援がありがたいのか、何が伝わりにくいのか、具体的に教えてもらえたのは貴重でした」「ピアサポーターが持つ力や可能性も再確認でき、これからの活動が楽しみになりました」等の感想をいただいた。当事者と支援者が協働して取り組むことがお互いのエンパワメントにもなり、今後の活動への励みになることも確認することができた。

4. 今後の展望

読者アンケートフォームを開設しており、2021年末まで感想を集約する。いただいたご感想はプロジェクトメンバーにもフィードバックし、本法人機関紙でも報告を行う予定である。読者からの感想も参考にさせていただき、今後も数年おきにナビゲート本を改訂し、発行を継続できるよう検討していきたい。